

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：11601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25780156

研究課題名(和文) 国際貿易における契約と制度に関する研究

研究課題名(英文) Contracts, Institutions, and International Trade

研究代表者

荒 知宏 (Ara, Tomohiro)

福島大学・経済経営学類・准教授

研究者番号：80648345

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトの研究成果として、以下の2つを挙げることができる。まず、2つの研究成果を査読付きの国際学術誌に公刊したことである。次に、新規プロジェクトに着手し、その研究成果を国内外のセミナーやコンファレンスで報告したことである。1つの研究成果は国際学術誌に投稿中であり、他の研究についても将来的に同様の学術誌に投稿し、研究成果を公刊できるように努める。

研究成果の概要(英文)：The main achievements of this research project are twofold. First, I have published two papers in international referred research journals. Second, I have initiated new programs and made presentations of these findings at several domestic/international seminars and conferences. One of them is now under review at an international referred research journal, whereas others will be submitted to refereed journals in order to disseminate the research outcome of my project.

研究分野：国際経済学

キーワード：国際貿易 契約と制度 マッチング アウトソーシング

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年のグローバル化の影響を受けて、中間財の供給を国内外の他企業に契約によってアウトソース(外部委託)することの経済的役割が大きくなってきている。特に、外国企業と契約が交わされる場合には、事後的な契約の履行性やアウトソースする企業間の契約交渉力が自国と大きく異なる可能性があるために、これらの制度的な差がアウトソーシングに重要だと考えられる。

(2) 制度とアウトソーシングを介した中間財貿易に関する研究は近年急速に伸びてきているものの、以下の2つの限界がある。1つは主に実証研究が中心であり理論研究からの視点が欠けている点、2つは国家間の制度と貿易政策に関する政策提言が十分になされていない点である。本研究は既存研究のこれら2つの限界に焦点を当て、国際貿易における契約と制度に関する理論と政策に関する経済分析を行った。

2. 研究の目的

(1) 1つ目の制度と貿易に関する理論研究の目的は、国家間の契約の履行性の違いが従来の国際貿易論で議論された貿易利益や貿易パターンにどのような関連があるかを考察することである。特に、途上国に中間財がアウトソースされることから生じる貿易利益や貿易パターンと、従来の最終財の貿易で論じられた貿易利益や貿易パターンとの類似性や相違性について契約の履行性の面から分析した。

(2) 2つ目の制度と貿易政策に関する政策提言の目的は、企業が国境を越えて中間財の供給をアウトソースによって委託する際に、従来の貿易政策ではあまり議論されてこなかったアウトソーシング先の契約交渉力の違いが貿易政策に与える役割について明示的に考察することである。特に、上流企業に下流企業が中間財を国際アウトソースする場合に、2タイプの企業の交渉力の差が外国からの中間財輸入に課される最適関税に与える効果を分析した。

3. 研究の方法

(1) 本研究の2つのプロジェクトは共に私が今まで行ってきた国際アウトソーシングに関する研究経験を土台にし、隣接分野からの知見を取り込んで発展させたものである。1つ目のプロジェクトについては、私の個人研究として、私がこれまで研究してきた貿易論と契約論の融合という方法を採用する一方、2つ目のプロジェクトについては、国際貿易論を専門とする私と、産業組織論を専門とする University of New South Wales (豪州) の Arghya Ghosh 教授との共同研究として推進した。

(2) これら2つのプロジェクトはお互いに密接に関連しているため、研究協力者に必要に応じてメールやスカイプなどで相談しつつ研究を同時並行で進めた。その上で、各々のプロジェクトが理論シミュレーションをするのに複雑なプログラミングを使うので、十分に研究が煮詰まってきた際に年に数回は直に会って細かい点を詰めていき、研究の精度を高めるようにした。

(3) その過程で、本研究のテーマを発展する形で、新たな研究テーマにも取り組んだ。3つ目のプロジェクトは、アウトソースする先の取引企業数が最適関税に与える影響について、これについては Arghya Ghosh 教授と University of New South Wales の Hodaka Morita 教授とともに共同研究に取り組んだ。4つ目のプロジェクトは、アウトソースする際の企業間のマッチングの問題で、これについては一橋大学の古沢泰治教授と共同研究を行った。

4. 研究成果

(1) 1つ目のプロジェクトに関しては、以下の2つの成果を出した。

国際アウトソーシングと中間財貿易の研究を Ara(2014)として査読付き学術誌に公開した。この論文では、途上国に単純労働集約的な中間財がアウトソースされやすいのは、途上国の低賃金だけでなく、契約の履行能力が低いことにも原因があることを理論的に説明した。更に、中間財をアウトソースする際に国内で行われるか国外で行われるかを分析し、この選択はアウトソーシングが行われる産業の単純労働集約度によって、図1のように分別させることを示した。またこの理論的結果は、既存研究の実証データからもサポートされていることも示した。

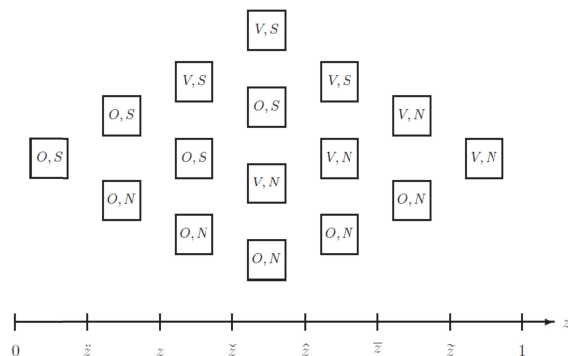


図1

(注) 図1では横軸のzが産業の単純労働の集約度を表し、四角の中がアウトソーシングの国内か国外かの選択を表す。

アウトソーシングと制度との関連研究を Ara (2016)としてまとめ、国内外の学会で研

究報告を行った。本研究では、国家間の契約の履行性の違いを貿易論の比較優位の源泉として捉え、先進国はアウトソーシングする際に事前に契約を書きにくい中間財を集約的に用いる産業に内生的な比較優位を持つことを一般均衡の枠組みで示した。本研究の興味深い示唆は中間財がアウトソースされることから生じる貿易利益や貿易パターンと、従来の最終財の貿易で論じられた貿易利益や貿易パターンは多くの面で類似しており、その意味で今まで貿易論で研究されてきた考え方が中間財のアウトソーシングにも応用できることを示した点である。

(2) 2つ目のプロジェクトに関しては、以下の1つの成果を出した。

企業間の契約交渉力とアウトソーシングされる中間財輸入への最適関税考察した研究は、Ara and Ghosh (2016)として査読付き学術誌に公開された。この研究では、企業数が固定されている短期的状況と、企業の参入退出が自由に行われる長期的状況を分けて分析した。まず短期的状況においては、企業の交渉力と最適関税の関係は図2(a)にあるように単調に減少することを示した。下流企業の交渉力が十分に低い場合には中間財輸入に対する最適関税は正であるが、下流企業の交渉力が十分に高い場合には最適関税は負になり、上流企業に対して補助金を出すことが経済厚生観点から望ましい。

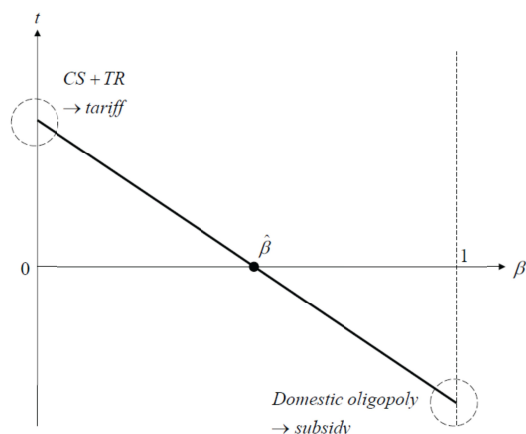


図 2(a)

(注) 図 2(a)では、横軸の β が下流企業の交渉力、縦軸の t が中間財輸入への最適関税を表す。

それに対して、長期的状況においては、企業の交渉力と最適関税の関係は図 2(b)にあるように非単調に変化することを示した。短期的状況と同じように最適関税は交渉力が等しい時に最も低くなるが、短期的状況とは異なり最適関税が正か負かは需要の価格弾力性に依る。更に長期的状況におけるこの最適

関税の性質は、企業の交渉力が外生的でも内生的でも頑強であることが確かめられた。本研究からの政策的含意は、貿易政策を実施する際に、自国市場への企業の参入しやすさが経済厚生にとって重要であることである。

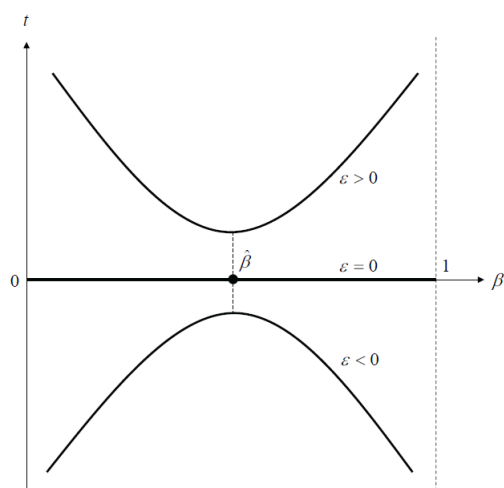


図 2(b)

(注) 横軸と縦軸の見方は図 2(a)と同じで、 ϵ が需要の価格弾力性を表す。

(3) 当初計画では予定していなかった新規プロジェクトに関しては、以下の2つの研究テーマに取り組んだ。

Ara and Ghosh (2016)では企業交渉力が貿易政策に与える影響について分析したが、Ara, Ghosh and Morita (2016)では貿易政策が上流企業と下流企業の立地に与える影響について分析した。Ara and Ghosh (2016)で焦点とされた企業の交渉力は現実に観察されず、実証データによって検証されないという弱点がある。これを踏まえ Ara, Ghosh and Morita (2016)では実際に観察される企業数を交渉力の近似として捉え、実証研究に応用可能な理論的枠組みを提供することを目的としている。このプロジェクトはまだ完成度が低いものの、次の数年以内に学術論文にまとめ、国内外の学会で研究成果を報告できると思われる。

アウトソーシングにおける上流企業と下流企業の数という文脈においては、2タイプの企業間のマッチングの問題も重要になってくる。この問題意識から、私は一橋大学の古沢泰治教授と共同研究を開始した。貿易が全くない自給自足から、各国が最終財貿易や中間財貿易を自由化すると、上流市場と下流市場の企業数が変化し、2つの市場でマッチングする企業数も影響を受けるので従来の貿易論では指摘されていない貿易利益や貿易パターンが生じることを理論的に示した。これを Ara and Furusawa (2016)としてまとめ、国内外の学会で研究成果を報告した。

<引用文献>

ARA, Tomohiro, "Comparative Advantage, Monopolistic Competition, and Heterogeneous Firms in a Ricardian Model with a Continuum of Sectors." Mimeo.

ARA, Tomohiro and Taiji FURUSAWA, "Relationship Specificity, Market Thickness and International Trade." Mimeo.

ARA, Tomohiro, Arghya GHOSH, and Hodaka MORITA, "Tariffs, Vertical Oligopoly and Market Structure," Mimeo.

5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線で、氏名が英文の場合は英語での著作や研究報告)

[雑誌論文](計 2件)

ARA, Tomohiro, "Global Sourcing in Industry Equilibrium," *Japanese Economic Review*, 査読有, 2014, 65(1), 93-115.
DOI: 10.1111/jere.12010

ARA, Tomohiro and Arghya GHOSH, "Tariffs, Vertical Specialization and Oligopoly," *European Economic Review*, 査読有, 2016, 82, 1-23.
DOI:10.1016/j.euroecorev.2015.09.010

[学会発表](計 16件)

荒 知宏, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", 中京大学セミナー, 2016.3.3, 中京大学(愛知県・名古屋市)

ARA, Tomohiro, "Comparative Advantage, Monopolistic Competition, and Heterogeneous Firms in a Ricardian Model with a Continuum of Sectors", Japan-CBS Applied Theory Workshop, 2015.9.17, Copenhagen Business School (Copenhagen, Denmark)

ARA, Tomohiro, "Comparative Advantage, Monopolistic Competition, and Heterogeneous Firms in a Ricardian Model with a Continuum of Sectors", Hitotsubashi Summer Institute: International Trade and FDI, 2015.8.1, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo)

ARA, Tomohiro, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", Australasian Trade Workshop, 2015.4.7, University of Sydney (Sydney, Australia)

ARA, Tomohiro, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", Hitotsubashi One-day Trade

Workshop, 2014.12.23, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo)

荒 知宏, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", 東北大学セミナー, 2014.10.30, 東北大学(宮城県・仙台市)

ARA, Tomohiro, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", Midwest International Trade Conference, 2014.10.18, University of Kansas (Lawrence, Kansas, USA)

荒 知宏, 「アウトソーシングとオフショアリング」, TCER=IES『国際経済学のフロンティア』ワークショップ, 2014.8.19, 慶應義塾大学(東京都港区)

ARA, Tomohiro, "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade", Japan Society of International Economics Spring Meetings, 2014.6.7, Hosei University (Machida, Tokyo)

ARA, Tomohiro, "Institutions as a Ricardian Source of Comparative Advantage", Australasian Trade Workshop, 2014.3.22, Curtin University (Perth, Australia)

荒 知宏, "Relationship Specificity, Market Thickness and International Trade", 第3回国際経済・産業セミナー, 2013.10.26, 福島大学(福島県・福島市)

ARA, Tomohiro, "Institutions as a Ricardian Source of Comparative Advantage", 4th International Conference on "Economics of Global Interactions: New Perspectives on Trade, Factor Mobility and Development", 2013.9.18, University of Bari (Bari, Italy)

ARA, Tomohiro, "Institutions as a Ricardian Source of Comparative Advantage", European Trade Study Group Conference, 2013.9.13, University of Birmingham (Birmingham, UK)

荒 知宏, "Institutions as a Ricardian Source of Comparative Advantage", 京都大学セミナー, 2013.6.14, 京都大学(京都府・京都市)

ARA, Tomohiro, "Institutions as a Source of Comparative Advantage", Midwest International Trade Conference, 2013.4.26, Michigan State University (East Lansing, Michigan, USA)

荒 知宏, "Institutions as a Source of Comparative Advantage", 東北大学セミナー, 2013.4.18, 東北大学(宮城県・仙台市)

〔図書〕(計 1件)

荒 知宏、東京大学出版会、アウトソーシングとオフショアリング：中間財貿易の原動力、第4章、2016

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~e124/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒 知宏 (ARA, Tomohiro)

福島大学・経済経営学類・准教授

研究者番号：80648345

(2) 研究協力者

GHOSH, Arghya

University of New South Wales, School of Economics, Professor

MORITA, Hodaka

University of New South Wales, School of Economics, Professor

古沢 泰治 (FURUSAWA, Taiji)

一橋大学・経済学研究科・教授